

実践女大家政 鍛島 康子

1. 今日の日本における衣生活に関する問題点の一つに、既製服生産とその普及ということがあげられる。この事実は、現今の大衆社会成立にとって、当然の帰結ともいえよう。欧米での既製服産業は19世紀半ばに始まった。そして今日では、それが多様化し、個別化しているとはいっても、量産を目的とする産業の軌道から、はずれることは出来ない。ここでは欧米における衣服産業の初期的発展の経緯を衣服産業史的見地からとりあげた。

2. 近代産業の発展という観点に立つ時、アメリカが他国をリードしている事実は、もはや否定出来ない。このことから、Nystrom P.H. の説を中心として、Faulkner H.U., Richards F., Chamberlain J.などの諸説により考察した。

3. 近代衣服産業成立の条件には、少なくとも、1)需要者、2)生産設備、3)技術者、4)商品の質の4点があげられるが、アメリカでのその過程は、およそ第一次世界大戦前までにおしなべて推進されていたと解釈できる。